

第1回 岡山盲学校及び岡山聾学校の校舎等整備に係る 基本構想検討委員会

I 現状と課題

1 岡山盲学校（岡山市中区原尾島4丁目16-53）

(1) 教育内容等

【現状】

- 県内唯一の視覚障害の教育部門を設置する特別支援学校として、一人一人の障害の状況に応じた専門性の高い教育を実践している。
- 視覚障害児・者相談支援センターを設置し、視覚障害のある乳幼児から成人、保護者、支援者への支援を行っており、視覚障害に関する相談機関としての役割を担っている。
- 全盲の児童生徒だけでなく、弱視の児童生徒も在籍している。
- 高等部理療科では、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等の専門的な技能の習得を目指す教育課程を設置している。

□ 設置課程

(対象)学校教育法施行令第22条の3に規定する視覚障害の程度を有する者

両眼の視力がおおむね0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度な者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの

学部・学科			修業年限	学級	コース
小学部			6年		
中学部			3年		
高等部	本科	普通科	3年	単一障害	進学希望コース
					キャリア支援コース
		重複障害	—		
	専攻科	保健理療科	3年		
		理療科	3年		
保健理療科		3年			

【課題】

- 近年、視覚障害と知的障害を併せ有する在籍児童生徒数が増加しており、重複障害のある児童生徒に対する教育内容の見直しが必要である。
- 中途視覚障害者に対応した教育課程の充実が必要である。

(2) 児童生徒数の状況

【現状】

□ 在籍児童生徒数の推移(推計)

○校舎建築時(昭和58年度)は、112人の児童生徒が在籍していたが、令和5年度は、29人の在籍となっている。(4分の1程度に減少)

○今後の推計においても、同程度の児童生徒数で推移すると見込まれる。

年度	S58 (1983)	→	H5 (1993)	→	R5 (2023)	→	R11 (2029)
児童生徒数(人)	112		82		29		35

別添 [資料1](#) (特別支援学校障害部門別在籍者数の推移【岡山県】)

【課題】

●一定規模の集団による多様な学習活動が困難になっている。

(3) 施設の状況等

【現状】

○主な施設(普通教室棟、特別教室棟など)は、築40年程度のものが多い。

○立地場所は、土砂災害の危険性がある。

○最寄りのバス停から学校までの道路(約800m)が狭い状況である。

【課題】

●主な施設(普通教室棟、特別教室棟など)の老朽化が進行しており、長寿命化改修の時期を迎えている。

●土砂災害の危険性があり、不安がある。

●JR の駅から距離のある立地場所であり、最寄りのバス停からの通学路も狭く、安全面で不安がある。

別添 [資料2](#) (敷地の状況)

別添 [資料3](#) (老朽化の状況)

2 岡山聾学校（岡山市中区土田51）

(1) 教育内容等

【現状】

- 県内唯一の聴覚障害の教育部門を設置する特別支援学校として、一人一人の障害の状況に応じた専門性の高い教育を実践している。
- 全県にわたり聴覚障害や聞こえに困難さのある子どもへの早期からの指導・支援を実施している。
- 人工内耳の普及により、地元の小中学校に就学する児童生徒が増えていることから、聴覚支援センターとしての機能の充実を図っている。
- 高等部では、平成28年度に社会情勢の変化を踏まえて、普通科（職業コース、基礎生活コース）及び総合デザイン科（産業デザインコース、ファッション・ヘアデザインコース）に改編している。

□ 設置課程

（対象）学校教育法施行令第22条の3に規定する聴覚障害の程度を有する者

両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のもののうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの

学部・学科		修業年限	学級	コース	系	
幼稚部		3年以内	/			
小学部		6年				
中学部		3年				
高等部	本科	普通科	3年	重複障害	職業コース 基礎生活コース	/
		総合デザイン科	3年	単一障害	産業デザインコース	
	ファッション・ヘアデザインコース				ファッション系 進学系	
					ヘア系	
	専攻科	理容科	1年	/		

【課題】

- 総合デザイン科ファッション・ヘアデザインコース(ヘア系)においては、平成28年度の学科改編後から在籍者がいない状況が続いており、理容科を設置する専攻科についても、平成30年度以降、在籍者がいない状況であることから、教育内容の見直しが必要である。

(2) 児童生徒数の状況

【現状】

- 在籍児童生徒数の推移(推計)

○校舎建築時(昭和46年度)は、219人の児童生徒が在籍していたが、令和5年度は、51人の在籍となっている。(4分の1程度に減少)

○今後の推計においても、同程度の児童生徒数で推移すると見込まれる。

年度	S46 (1971)	→	H5 (1993)	→	R5 (2023)	→	R11 (2029)
児童生徒数(人)	219		81		51		52

【課題】

- 一定規模の集団による多様な学習活動が困難になっている。

(3) 施設の状況等

【現状】

○主な施設(普通教室棟、特別教室棟など)は、築50年程度のものが多い。

○最寄りの JR の駅から徒歩でも通学できる距離に立地している。

【課題】

- 主な施設(普通教室棟、特別教室棟など)の老朽化が進行し、約半分の建物がコンクリート圧縮強度不足のため改築が必要である。
- 校舎の外壁の剥離など、老朽化が進行している。
- 2棟の建物はアスベスト(石綿)の使用が確認されており、囲い込みの措置を行っている。

別添 資料4 (敷地の状況)

別添 資料5 (老朽化の状況)

II 教育環境の再構築の方向性

1 教育内容の見直し

(1) 岡山盲学校

○視覚障害と知的障害を併せ有する多様な実態の重複障害の児童生徒が増加しており、教育内容の見直しを検討する。
(第2回検討委員会で見直し案を提案予定)

○中途視覚障害者の自立と社会参加を踏まえた専攻科の教育内容の見直しを検討する。
(第2回検討委員会で見直し案を提案予定)

(2) 岡山聾学校

○総合デザイン科ファッション・ヘアデザインコース(ヘア系)を廃止するとともに、総合デザイン科の教育内容の見直しを検討する。
(第2回検討委員会で見直し案を提案予定)

○専攻科理容科の廃止を検討する。
(第2回検討委員会で見直し案を提案予定)

2 校舎等整備

(1) 新校舎等の整備場所

岡山聾学校の現運動場に両校を集約し、新しい校舎等を整備する方向で検討する。

<理由>

○岡山聾学校の現敷地は、JRの駅からも近く、通学手段の選択肢が広がることや、近隣の学校(岡山東支援学校など)と連携しやすい環境にあることなどから、適地である。

○岡山聾学校の現運動場に新たな校舎等を整備することで、新たな用地取得は不要となり、工事期間中も、両校とも移転が必要なくなることから、工事期間中の教育環境面や、経費面でメリットがある。

【整備候補地】

岡山市中区土田51（岡山聾学校の現運動場）



(2) 学校の整備形態

○学校の整備形態としては、他県の先進事例を踏まえ、「一体型」又は「併設型」で検討する。

□ 一体型と併設型の違い

一体型	<p>(整備形態)</p> <p>○1校の中に視覚、聴覚の教育部門を設置する。 (県内の特別支援学校で知的部門と肢体不自由部門とを併置している学校と同じ形態。)</p> <p>○人員体制は、校長は1名、事務職員や養護教諭等も1校としての配置となる。</p> <p>(メリット)</p> <p>○有利な補助金や起債が活用できる。</p> <p>○同じ校内組織の中で障害の異なる教育を行うことで、職員間の交流の機会が増えることから、それぞれの障害種の指導者の育成にプラスの効果が期待できる。</p> <p>(デメリット)</p> <p>○校名が1つとなるため、視覚障害、聴覚障害それぞれの障害に対応した学校であることを示すためには、校名を工夫する必要がある。</p> <p>○外形上は2校が1校になり、新設校の扱いになることから、両校がこれまでどおり専門性を持った学校であることを積極的に周知する必要がある。</p>
併設型	<p>(整備形態)</p> <p>○同じ敷地の中に、岡山盲学校、岡山聾学校を別々の学校として設置する。</p> <p>○人員体制は、別々の学校であるため、校長以下それぞれに配置が基本であるが、他県の同事例においては、管理部門の兼務により、ほぼ一体型と同様の配置となっている。</p> <p>(メリット)</p> <p>○校名が2つとなるため、視覚障害、聴覚障害それぞれの障害に対応した学校であることが分かりやすい。</p> <p>○岡山盲学校の移転はあるものの、両校はこれまでどおり専門性を持った学校であることが対外的に分かりやすい。</p> <p>(デメリット)</p> <p>○有利な補助金が活用できない。</p> <p>○同じ敷地の中で障害の異なる教育を行うことで、両障害の指導者の育成にプラスの効果が期待できるが、校内組織が異なることから、職員間の交流の機会を意図的に設ける必要がある。</p>

□ 施設規模

	現施設	整備案
校舎	盲 6,732㎡	○在籍児童生徒数に見合った規模の校舎を新たに整備する。
	聾 6,834㎡	
体育館	盲 432㎡	○聾学校の現体育館を改修し、共同の体育館として整備する。
	聾 742㎡	
寄宿舎	盲 1,348㎡	○在籍児童生徒数に見合った規模の共同の寄宿舎を新たに整備する。
	聾 912㎡	
給食調理場	盲 360㎡	○在籍児童生徒数に見合った規模の共同の給食調理場を新たに整備する。
	聾 246㎡	
計	17,606㎡	

□ 総事業費(見込み) 約50億円

(3) 教育環境の整備の考え方

■ 基本的な事項

○特別支援学校設置基準等の趣旨を踏まえた施設環境を整備する。

・普通教室、特別教室等、自立活動室等の設置

○視覚障害、聴覚障害それぞれの障害に対応するための対策を踏まえ、児童生徒の動線に配慮した安全で快適な学校生活を送ることができる施設環境を整備する。

・障害による様々な学習上、生活上の困難さを改善するためのICT機器の活用が推進されるよう情報通信環境を整備する。

■ 校舎等の整備において配慮する事項

○校舎

・日常的な学校生活において、障害に応じた教育が適切に受けられるよう、視覚障害と聴覚障害でそれぞれ棟を分け、普通教室やトイレ等を整備する。

・自立活動室や実習室等は、障害に応じた教育が適切に受けられるよう、それぞれの障害種で分けて整備する。

・視覚障害と聴覚障害に配慮した上で、音楽室や美術室、家庭科室等の特別教室、職員室や保健室、教育相談室、進路指導室等は共用できるよう整備する。

○体育館

- ・視覚障害と聴覚障害にそれぞれ配慮した上で、聾学校の現体育館を改修し、共用できるよう整備する。

○寄宿舍

- ・障害に応じて生活空間を分ける等の配慮により、安全な寄宿舍生活を送ることができるよう整備する。
- ・障害に応じた火災警報装置等の設置や避難経路の確保など、徹底した安全対策を講じることで、災害時に安全な対応ができるよう整備する。
- ・視覚障害と聴覚障害にそれぞれ配慮した上で、食堂や浴室等は共用できるよう整備する。

○給食調理場

- ・障害に応じた学校給食や舎食が提供できるよう、共同給食調理場を整備する。

Ⅲ 今後のスケジュール

次のスケジュールで、整備を進める予定とする。

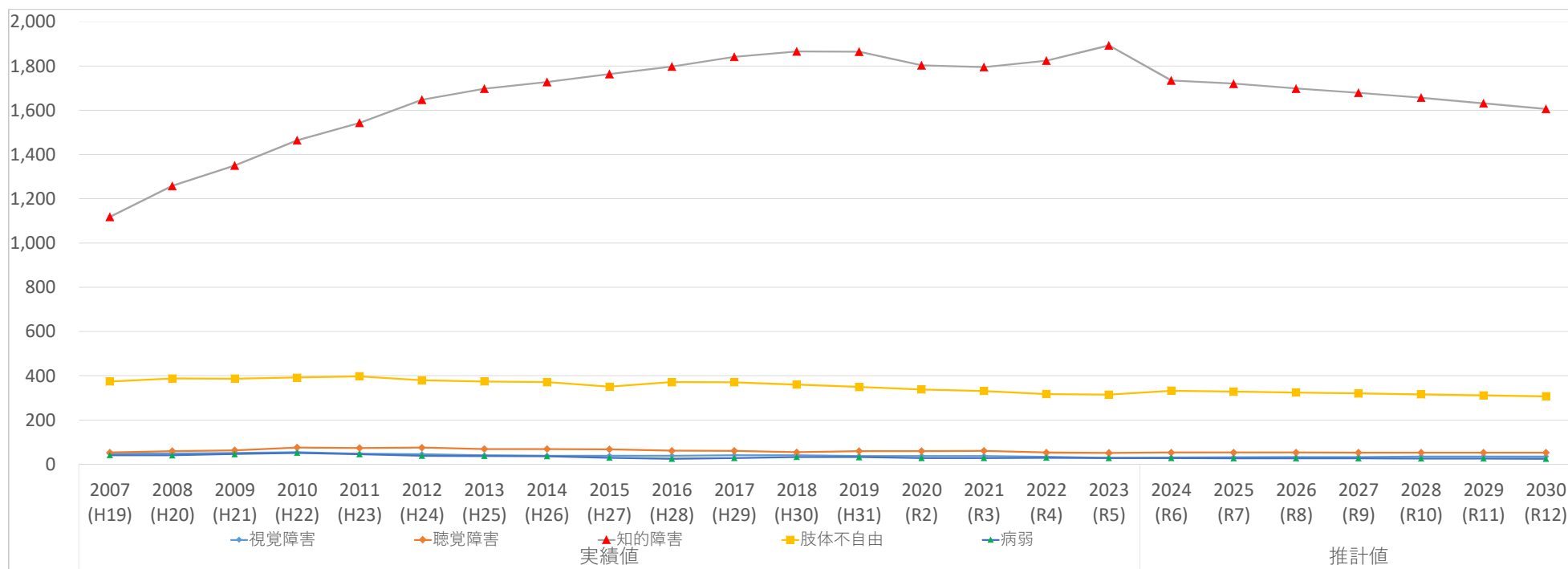
年度	内容
令和5年度 (2023年度)	令和6年1月9日(火) 第2回 基本構想検討委員会 令和6年2月9日(金) 第3回 基本構想検討委員会 令和5年度内 基本構想策定
令和6年度 (2024年度)	基本計画策定、大規模事業評価
令和7年度 (2025年度)	基本設計、実施設計
令和8～10年度 (2026～2028年度)	工事、移転
令和11年度 (2029年度)	供用開始

特別支援学校障害部門別在籍者数の推移【岡山県】

資料1

(各年度5月1日現在)
(単位：人)

区分	実績値																	推計値						
	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
視覚障害	48	49	51	54	48	45	40	38	38	38	41	41	37	37	37	34	29	30	31	32	33	35	35	35
聴覚障害	53	59	63	76	73	75	69	69	67	61	60	54	59	59	60	53	51	53	53	53	52	52	52	52
知的障害	1,118	1,258	1,350	1,464	1,543	1,647	1,697	1,728	1,764	1,797	1,841	1,866	1,865	1,803	1,795	1,824	1,893	1,735	1,720	1,698	1,679	1,657	1,631	1,606
肢体不自由	374	388	387	392	397	379	374	371	350	371	370	360	349	338	331	317	314	332	328	324	320	316	311	307
病弱	41	40	46	51	45	38	37	36	29	25	28	33	32	28	28	29	28	28	27	27	27	26	26	25
合計	1,634	1,794	1,897	2,037	2,106	2,184	2,217	2,242	2,248	2,292	2,340	2,354	2,342	2,265	2,251	2,257	2,315	2,178	2,159	2,134	2,111	2,086	2,055	2,025

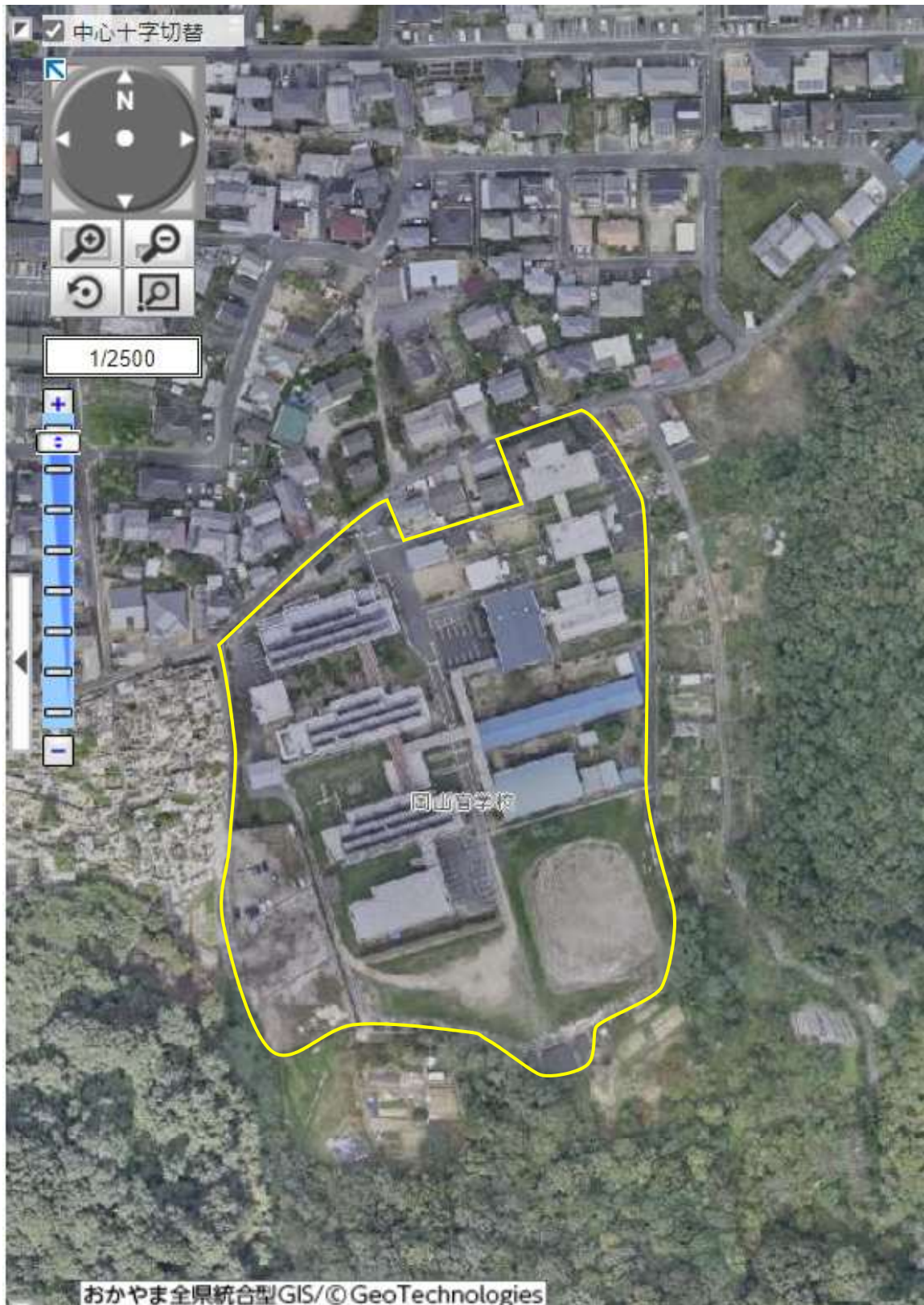


岡山盲学校(敷地の状況)

資料2

■ 現所在地:岡山市中区原尾島4丁目16-53

■ 敷地面積 27,509.6㎡



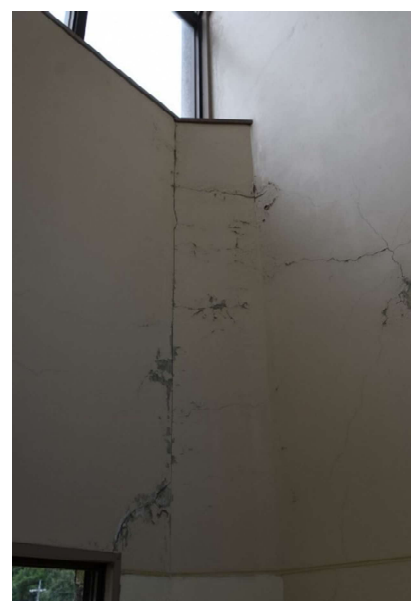
【岡山盲学校】 校舎等の現況(老朽化の状況)

① 爆裂・剥離・亀裂の様子



←外側 内側→

雨水が浸透し、
内壁のひび割れ
につながった
可能性



② 錆びた非常用スロープ



③ 寄宿舍
(中) 木製ドア

(左下) ガムテープ補修の窓

(右下) ガムテープ補修の家具



岡山聾学校(敷地の状況)

資料4

■現所在地:岡山市中区土田51

■敷地面積 26, 253. 55㎡



① 爆裂・剥離・亀裂の様子



② 廊下に亀裂がある。

③ 危険箇所を斫り、錆止め対応している。